

うように楕円形を呈する。曲輪の縁辺に土塁は確認できない。頂部から尾根上南側の参道にかけては延長 30 m、幅 8 m 前後の狭小な曲輪が 2 面、南端に小規模な曲輪が確認できる。頂部の南斜面には帯曲輪が 2 面あり、犬走りで繋がる。一方、備中高松城跡に面した北斜面には切岸以外に防御施設は確認できない。さらに頂部北東側の鞍部には東西の谷部が繋がるように尾根筋が大規模に切られている。この切り通しは現状で岩盤が露出しているため、大部分は後世の改変によるものと考えられるが、切り通しの南西側の肩口は堀切の名残をとどめている可能性もあろう。全体的に見て、縄張りは狭長の曲輪を配置する程度で、防御は堅くなく、臨時的な施設と見受けられる。

文献・伝承 『中国兵乱記』によれば、天正 10（1582）年の備中高松城の水攻めの際に、織田方の堀尾茂助が陣を張ったと伝わる。（米田）

395 いしいやま 石井山陣跡 岡山市北区立田 地図 23 右

立地 足守川左岸の標高約 80 m、比高約 70 m の山頂部に立地する。隣接して西約 250 m に御崎山陣跡、同一山塊には本陣跡から谷を挟んで南側 270 m の頂部に蛙ヶ鼻陣跡が接する。さらに、西の眼下には足守川下流域の平野部を見下ろし、北西約 800 m に備中高松城跡が位置する。

概要 縄張りは山頂部から南側と西側に延びる尾根上に曲輪を連ねる構造をもつ。城域は東西 450 m、南北 190 m と大規模である。頂部には長大な曲輪が 3 面連続して配置されている。最頂部の曲輪は東西 120 m × 南北 30 m と大規模で、北辺は幅 10 m 程度、高さ 30cm の低い土塁状を呈する。また、山頂部の東寄りには「太閤岩」がある。さらに南側の尾根にかけては、造作のあまい狭長の曲輪が 2 面連続しており、それぞれ東西 15 m × 南北 70 m、東西 15 m × 南北 60 m の規模を有する。西側の尾根には大小の曲輪が 3 面連続する。頂部の曲輪は東西 50 m × 南北 30 m であり、備中高松城がある北西の眺望が良好である。また頂部の南西には小規模の平坦面があり、清水宗治の首塚が祀られている。さらに西側には東西 50 m × 南北 20 m の長方形の曲輪、西端に東西 70 m × 南北 15 m の狭長の屈曲した曲輪が連なる。西端にある曲輪の北辺には幅 10 m、高さ 50cm の土塁状の高まりがある。また、西側尾根の南斜面には狭長の平坦面が 2 段程度あり、谷部の防御を固める。

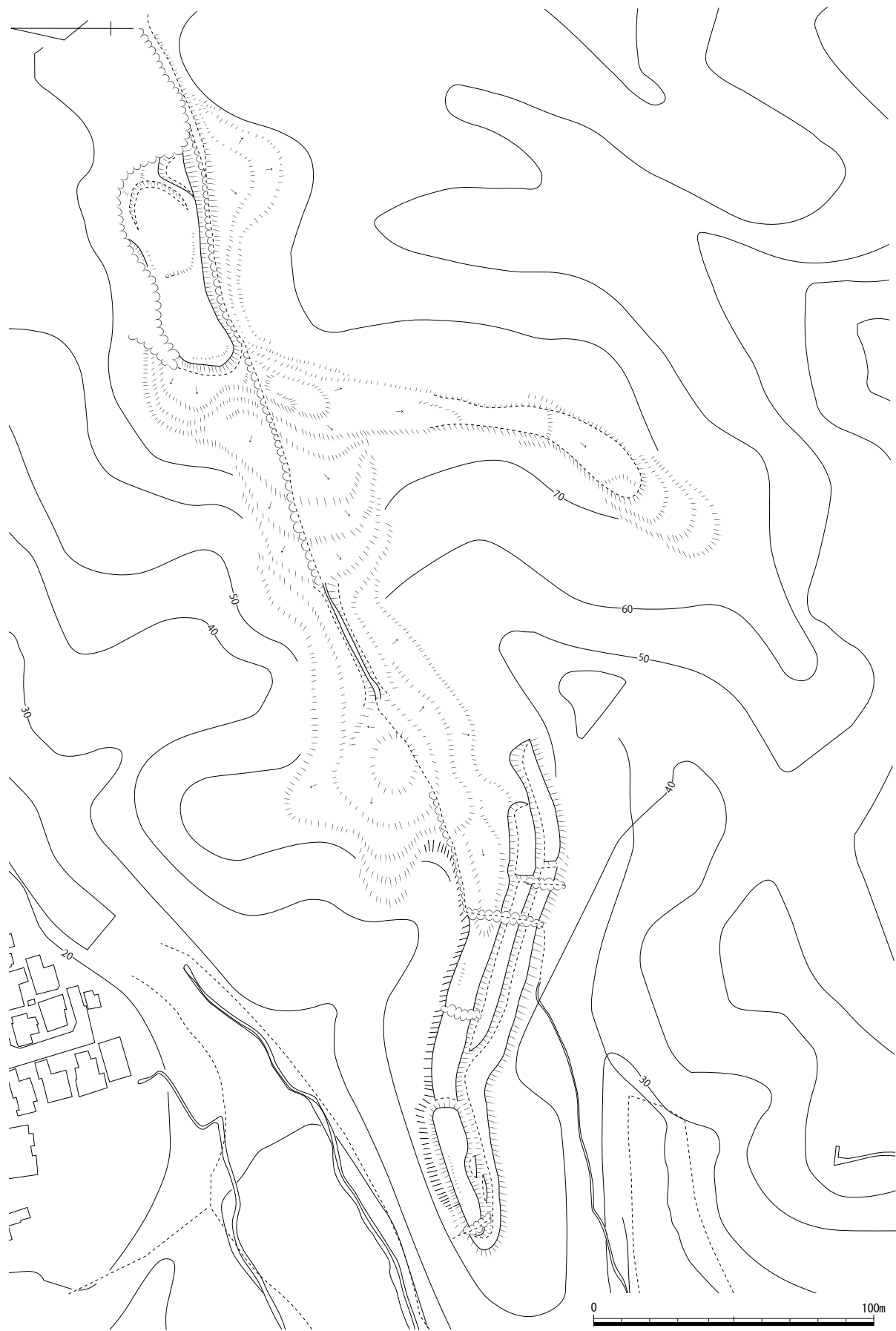
文献・伝承 『桂炭円覚書』によれば、天正 10（1582）年の高松城攻めの際、龍王山、高松城水攻陣跡から移り、同年 5 月 8 日より羽柴秀吉が陣を敷いたとされる（文献 147 乗岡実「備中高松攻めの陣城群」『織豊系城郭の陣城』2012 年）。（米田）



写真 164 石井山陣跡から備中高松城跡を望む（東から）



写真 165 清水宗治の首塚（南から）



第 335 図 石井山陣跡縄張り図 (1/2,000) 作図：和田 剛